



国民の森林・国有林

中部森林管理局

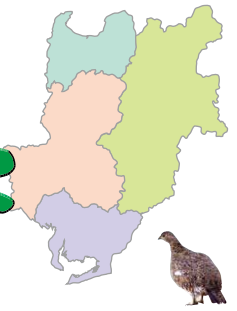
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報

# 中部の森林



赤沼田天保林でのボランティア作業へ参加いただいた方々

## 各地で生徒等によるレク森整備が始まる!

故郷のすばらしさを再発見

(P 4～6に関連記事)

主な項目	○ 新任幹部挨拶 .....	P 2
	○ 寄稿：第25回森林レクリエーション地域美化活動コンクール 農林水産大臣賞受賞 NPO 木曾ひのきの森 .....	P 3
	○ 各地からのたより .....	P4～6
	○ シリーズ「森林官からの便り」 .....	P6～7
	○ シリーズ「ご当地自慢」 .....	P 8



# 新任幹部挨拶



新総務企画部長  
たかのびこ  
高信 好彦

七月二日付け人事異動により、中部森林管理局職員に仲間入りさせて頂いたこととなりました。中部の森林づくりに貢献できればと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いします。

実は、中部局管内の勤務は、二度目となります。前橋局に採用されて以来、現場は、長野局、北見分局、九州局の管内に勤務させて頂いてきました。

この勤務を通じて感じることは、中部局管内の植生の豊かさです。王滝署で造林係長の職に就いた時、事業量の多さにびっくりしました。新植面積が百六十ヘクタール、手刈の下刈面積が一十ヘクタール、また、同規模の薬剤散布(フレノック)を実施していました。その他カモシカ防護柵の設置や除伐など多くの事業量があり、予定価格の積算に明け暮れる日々でした。しかし、そのような中でも、請負箇所の完了検査、林況調査、また、収穫調査等で現場に行く機会がありました。そのような機会には、リュックに「ミニきのこ図鑑」を忍ばせていま

た。きのこを見つけたら立ち止まって観察、またはリュックに入れました。食べられそうなきのこは、家に持ち帰り、試食しました。もちろん、妻は怖がつて食べません。翌日、私の体調に異変がないことを確認してから食べていたようです。そこで分かったことは、針葉樹の天然林内にも多くのきのこが自生しているという事実。図鑑に「食用」と記載して

いないきのこは、食べることに問題はありませんが、美味しくないとということ。焼いたり、炒めたりといった単純な料理法でしたので、他に美味しく食べられる料理法があるのかも知れませんが。また、二年目に入り、天然更新地の実態把握を求められたことから、スケジュールを調整しながら、経営課長、担当区の主任や係員とともに天然更新地の実態調査に足を運びました。プロットを設定し、笹の中を掻き分けながら、稚樹の本数を数えました。そこでは、稚樹の本数の多さにびっくりしました。丈が一メートルを超えているものも相当数あり、安心したことを憶えています。特にヒノキです。また、いたるところで倒木更新を見ることができました。ポドソルの土壌、笹生地、しかもマイナス二十度以上にもなる極寒の山岳地。その生命力に驚かされました。

中部森林管理局管内は、日本海から太平洋を縦断する区域に位置し、その気候風土の違いにより多様な植生を有してお

ります。動植物の宝庫であり、後世に残すべき貴重な財産です。

総務企画部長という職務上、森林整備等の事業に直接タッチすることはできませんが、現場の職員が実践するこれらの取り組みに側面から応援、また、フォローしていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

## ◆高信総務企画部長の略歴

生年月日 昭和三十三年一月八日  
本 籍 東京都八王子市  
略 歴 茨城県立大子第一高等学校卒  
(S1・3)

- 昭51・4 前橋局総務部人事課に採用後、前橋局利用課・沼田署、今市署、水上署、林業講習所、長野局王滝署、坂下署、関東農政局構造改善課、長野庁計画課、林産課を経て
- 平11・8 北海道森林管理局網走署次長(留辺薬事務所長)
- 〳13・8 長野庁職員・厚生課企画官
- 〳16・4 長野庁職員・厚生課課長補佐(給与・手当班担当)
- 〳18・4 長野庁管理課課長補佐(人事研修班担当)
- 〳20・12 九州森林管理局熊本森林管理署長
- 〳23・4 長野庁管理課管理官
- 〳25・4 長野庁林政課管理官(契約適正化推進担当)

# お世話になりました

〳25・7 中部森林管理局 総務企画部長

## ◆前総務企画部長

木村 大助

平成二十二年四月に着任し三年三ヶ月お世話になりました。留守番役が多かったため、なかなか現場に出向くことが出来ず各署等の皆さんには失礼しました。

その分休日を利用して家族ともども管内の観光地や温泉をめぐりました。特に木曾駒ヶ岳や白馬、上高地は印象に残っています。また、温泉も豊富で近場から野沢温泉や高山村など楽しませていただきました。趣味のテニスも職員の皆さんと楽しくプレーができました。

業務に関しては、一般会計化への移行もあります。やはり平成二十二年の重大災害に準ずる二件の災害、数件の不祥事が残念でした。労働災害のない健康で明るい職場作りのためには、指導、注意喚起の繰り返しと職員の自覚をどのように促すかです。また、不祥事についても自分の取ろうとしている行動が、疑惑や不信をもたれないか常に意識して行動することです。国有林野事業も一般会計となりました。これまで以上に、風通しのない職場作りに努めながら、国民目線

業務に取り組むようお願いいたします。

また、研修など機会あることに言い続けていたことがあります。国有林野の管理・経営は林野庁ではなく現場の林業技術者が担っているということです。現場で培った技術力を十全に発揮し、継承していくことが我々に与えられた使命です。

毎日、地下足袋を履いて現場を歩くことで、森林を見ればその林分内容や成り立ちが分かり、将来に向かってどのようにか、峰筋・沢筋、雨水の通り道を読みながら雨水に耐え長持ちする道をつけるにはどうすればよいか、年度ごとに、どこをまとめて間伐すれば効率的で販売に有利か、崩落した山腹にどのような工種を施せば安定するのかが分かります。このような技術が備わって実践できることが林業技術者であり、我々の存在意義です。特にこれからの担う若い職員の皆さんには、常に現場と向き合いながら、森林・林業のことなら誰にも負けないという自負と誇りを持って森林・林業再生の推進役になっていただきたいと思っております。

最後に、伝統のある中部森林管理局の益々の発展と、職員の皆様への感謝を申し上げ挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。お世話になりました。

## 農林水産大臣賞受賞

### NPO 木曾ひのきの森

「特定非営利活動法人木曾ひのきの森」団体が、一般社団法人全国森林レクリエーション協会主催の第二十五回森林レクリエーション地域美化活動コンクールにおいて、上松町赤沢自然休養林での美化活動等を評価され、農林水産大臣賞を受賞されましたので理事長の横井氏より寄稿をしていただきました。

## 寄稿

### 特定非営利活動法人 木曾ひのきの森

理事長 横井 剛 氏

六月六日(木)に東京都において開催された一般社団法人 全国森林レクリエーション協会「第二十五回森林レクリエーション地域美化活動コンクール」受賞団体の表彰式に参加をし、栄えある農林水産大臣賞を受賞してきました。

当日は、全国森林レクリエーション協会会長の三浦雄一郎さんが史上最高齢(八十歳)でのエベレスト登頂直後ということで出席できなかったため、お会いすることができなく少々残念でした。

私たち「NPO木曾ひのきの森」は赤沢自然休養林で実施していた活動をベースに、平成十六年十一月に設立しました。会員三十六名と賛助会員十三名で構成され、森林資源の保護や森林の楽しみ方、木曾の交通を支えた森林鉄道の案内

などを行うことを目的として、赤沢自然休養林のガイド活動、植物の研究、保護活動、遊歩道の整備、自然保護の啓発活動を行っています。

現在は、木曾森林管理署等と協働で、大山中学校の森林教室をはじめとした森林の保護啓発活動、木材チップ舗装実施ボランティアの活動、赤沢自然休養林内の歩道の清掃や整備活動、外来種の除去作業等を行っています。



横井氏の受賞挨拶の様子

赤沢自然休養林の入園者数は年間約十万人の来園者があり、昨年(平成二十四年)には赤沢自然休養林の入園者数が過去最高の十四万人を記録しました。

来園者の方からは「この天然林を見てみると時間がたつのを忘れてしまう。」「来年もここにきて植物の開花をもう一

度見たい。」といった声が聞かれています。

こういった来園者の声を大事にし、多くの人が赤沢自然休養林に訪れやすいように、日頃から自分たちができることを行っていきたいと考えています。

今回の受賞は、今行っている活動が評価されたものですが、「継続は力なり」というように今後も現在の活動を継続していきたいと思っております。

最後になりますが、中部森林管理局及び木曾森林管理署、上松町等の指導、助言をいただきながら今後も活動していきますので、今後も当会の活動のご支援及びご協力をいただきますようお願いいたします。



受賞者記念撮影 (右から二番目が横井氏)



# 各地からのたより

## 住まいの耐震博覧会に特別展示

「名古屋事務所」住宅の耐震化をキーワードに、木材・建材・住宅設備機器などを紹介する総合展示会「住まいの耐震博覧会」が、六月二十二日、二十三日、名古屋市のポルトメッセ名古屋で開催されました。



木造住宅骨組み展示

中部森林管理局では古い文献や写真、映像などのデジタルアーカイブ化を進めており、明治三十年代から昭和初期の林



写真パネル展示

業の写真を拡大したパネルを作成したことから、博覧会に木曽川での古い伐木運材の写真を展示していただきました。

博覧会では、木材利用ポイントが始まることから、「流域材で地産地消の家づくり」をテーマにした「木と住まいのパビリオン」があり、木曽川流域をイメージした展示となりました。

パビリオンに入るとまず、御嶽山をイメージしたモニユメントの出迎えがあり、その奥には木造住宅の実物大の家の骨組み展示がされていました。

中部森林管理局から提供した写真は、「木曽川と流域材の運材の歴史展」コーナーに置かれ、御嶽山の麓の森林から木材が伐倒され、木曽川を下り、貯木場で貯材されるまでの一連の古い写真が展示されました。併せて、伊勢湾台風後の復興材を輸送する様子の写真も展示され、

来場者からも好評を得ていました。当日、会場には三万人以上の来場者があり、木造建築の良さ・木のぬくもりにもふれる一時となったようです。



写真パネル展示

各地で生徒等による  
しゅ森整備が始まる！

### 赤沼田天保林で

### ボランティア作業

「岐阜署」六月七日、岐阜県下呂市小坂町赤沼田国有林にある赤沼田（あかんた）の天保林（てんぼりん）において地元小坂中学校の生徒によるレク森の遊歩道整備が行われました。これはグリーン

ウェイブ2013協賛事業として、当署をはじめ地元小坂町の小坂中学校、一般社団法人名古屋林業土木協会小坂支部、振興事務所、森林組合、観光協会、商工会、NPO法人飛騨小坂200滝、小坂みどりの風など九つの関係組織・団体の協働によるボランティア作業のイベントとして開催したものです。

赤沼田天保林は、飛騨の天領林政下で森林資源の枯渇に対処するため、公役造林を課し天保十三年（一八四二年）に植栽が始まったとされ、国内でも例の少ない高齢級の造林地であり、歴史的・学術的に価値が高く、ヒノキ植物群落保護林に指定されています。林内には観察のために歩道や案内板が設置されており、森の巨人たち百選のひとつ「ヒノキの大樹」（樹高三十五メートル、幹周三・五メートル）がそびえています。

午前中は林業土木協会の会員、森林組合を主体に約五十名が参加し、遊歩道の崩土除去、丸太土留の作設や、草刈りなどの作業を行いました。

午後は、小坂中学校の一年生十七名も加わり、長口署長及び林業土木協会小坂支部梅田支部長から天保林の説明を含め歓迎の挨拶を行った後、影山地域林政調整官による森林教室を行いました。森林教室では仕掛けを凝らしたパネルや写真を使用するとともに、生徒たちが修学旅行で見学したという法隆寺の柱（使われた木の大きさ）と天保の大ヒノキの大き